

## 翁長のヨンシー

みなさんは、翁長で古くから行なわれているヨンシーという行事をご存知ですか？

ヨンシーとは、旧暦八月七日から十五日にかけて行なわれる女の子が主役の行事で、小学生の女の子を中心に蛇の形をした綱・ヨンシーを肩の上に持ち上げ、「ヨンシーヨンシー、ウナガ又ヨンシー」とうたいながら、集落内の中道（火又神↓テイランキーガー↓シージモー↓火又神までの約一キロメートル）を一日に七往復します。

ヨンシーの初日である九月十三日（旧暦八月七日）は、イータティといって、ヨンシー綱を作ったり、ムチグワートウエー（ヨンシーに参加した女の子達に餅が配られる。以前は、火又神などに供物として捧げられた餅をワサンデーする（下げる）際に、子供達が我先にと取り合ったという）で配られる餅や揚げ豆腐を作ったりして、準備が進められます。できあがった綱は、長さが六メートルほどで、頭と口は蛇に似せて作られています。この綱は、準備が整うまで、火又神の前にとぐ

る状に置いておきます。

今回は、午後四時ごろから坂田保育園と西原白百合保育園の約六十名の園児たちもヨンシーを体験し、かわいいうち声を聞かせてくれました。



さて、字の子供たちによる本来のヨンシーは、午後五時ごろから始まりました。まず、長老によって火又神での拝みがなされます。

その後、カニ（鉦）が鳴らされ、子供たちや婦人たちが、ヨンシーを持ち上げて「ヨ

ンシーヨンシー、ウナガ又ヨンシー」と元気よくうたいながら、テイランキーガーと呼ばれる井戸に向かいました。テイランキーガーに着くと、ヨンシーを腰にあて、輪になって反時計回りに七回まわった後、綱を地面に降ろし、口に手をあてて「アーワー」と声を発します。その光景は、なんともユーモラスで思わず笑ってしまいました。

テイランキーガーの次は、シージモーと呼ばれる小高い丘に向かいます。その道中でも「ヨンシー…」のうたは繰り返され、シージモーでもテイランキーガーと同様なことを行います。

以前は、この道のりを一日に七往復、九日間つづけて行なったそうです。近年は、初日の旧暦八月七日と最終日の十五日に、それぞれ一往復するのみとなりました。旧暦八月十五日の最終日には、テイランキーガーとシージモー間の往復が終わると、翁長を一望できるイヌモーという丘に登って、ヨンシーの口を南に向けて、拝み、ウークイ（送り）をし、ヨンシーは終わりました。（綱はそのままイヌモーに放置されます。）

その後、午後七時から公民館において十五夜祭が催され、婦人会・老人会などによる踊りや唄が披露されました。最後は獅子舞が披露され、盛況のうちに翁長の八月十五夜が終わりました。



獅子舞